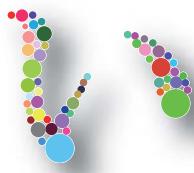
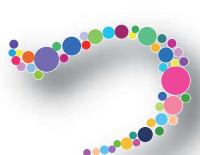
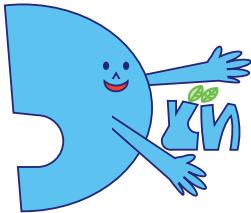


法人広報誌



第23号

平成29年3月31日

発行者

社会福祉法人 つどいの家
理 事 長 下郡山 和子
〒984-0838 仙台市若林区
上飯田一丁目 17-58
TEL 022 (781) 1571
FAX 022 (781) 1573
URL : www.tsudoinoie.or.jp



「新緑」安室悠太

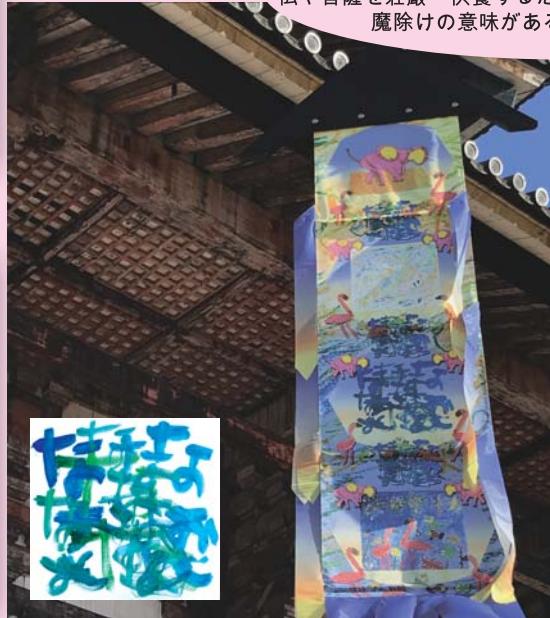


幡とは・・・

東大寺の重要な法要の時に使われる「旗」のことです。
仏や菩薩を莊嚴・供養するために用いられ、平和を祈ったり
魔除けの意味があるといわれています。



「花鳥風月」河田直也



「なおと」板垣直人

「ビッグ幡 in 東大寺」

奈良県障害者芸術祭
HAPPY SPOT NARA
2016-2017の一環で、奈良県及び東日本大震災の被災地域に住む障がいのある人たちから「花鳥風月」をテーマに絵画作品を集め、大きな幡(ばん)を製作し、東大寺大仏殿前にそれぞれの思いのこもった幡を展示し、平和への祈りを発信しました。当法人からはつどいの家・コペルの菊池満子さん、高嶋智子さん、赤井澤功子さん、川田直也さん、安室悠太さん、若林障害者福祉センターの板垣直人さんの応募作品が選ばれました。



「ワタシが見たほしざら
とてもきれい」
赤井澤功子

「さわぐ」高嶋智子

「イルカ」菊池満子

平成28年7月26日未明、神奈川県相模原市にある障害者支援施設「津久井やまゆり園」で、入所者等46人が次々と刃物で刺され、入所者19人が死亡、職員3人を含む27人が重軽傷を負いました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様には謹んでお悔やみを申し上げます。この事件を受けて、つどい第23号では、これまでの法人の取り組みなどを振り返り、「人権」や「共生社会」などについて改めて考えてみました。

障がい者大量殺害・津久井山ゆり園事件を考える

つどいの家 理事長 下郡山 和子



第一報に接し、ああ、日本もこのような凶悪な事件が起きる世の中になってしまったか、という嘆きとともに、無力感が押し寄せました。私は、これまで何をしてきたのだろう・・・。

重症心身障害がある娘を育てる中で、前を向いて、どんな重いしようがいがある人も、ありのままで生きる権利があることを伝えようと様々な運動をしてきました。近頃、やっと、地域社会に受け入れられる下地ができたと思えるようになったのです。平成23年、国は、障害者基本法を改正し、共生社会の実現に向けて社会参加等の施策を推進することを決めました。国際障害者権利条約も批准され障害者差別禁止法も制定されました。

しかし犯人は「障害者は不幸を作ることしかできません」と言い、「重度障害者を殺害することが、日本のためである」との殺害予告までしていたということです。50数年前、脳性麻痺と診断された娘について、「Kちゃん、そのとき死ねばよかったですのにねー」と言った友人の言葉を思い出しました。その時の彼女は心底悪気がなさそうでしたので、怒ることもできず、無知ゆえの発言なのだろうと、心の中に収めていました。

差別の解消は、強制して進むものではなく、一人ひとりの市民の意識や生活に関わっており、時間がかかります。

私は、わが子の尊厳を守るために、就学保障運動をして憲法の保障する教育権を獲得しました。そして、社会福祉法人を設立し、地域の人たちに、しようがいのある人達のことを理解して頂くことに努めてきましたつもりです。

しかし、共生社会の実現には、国が音頭を取り制度ができたって、お題目でしかない…人間の心を変えることなんて簡単にできないよな、犯人がそこまで思いつめた心の闇は深いのだろうな…というのが、悲しい実感です。

根底には、現代社会に蔓延る、もっと深い闇があるように思います。この事件だけが特異ではないのです。過去には、ナチスによる優生思想に基

づく障害者抹殺、日本では、つい最近まで優生保護法があり、今は新型出生前診断や臓器移植で命を選別しています。また、この数年、高齢者が窓から放り投げられる事件や、手のかかる児童の虐待報道が目立ちました。経済的価値や能力で人間を序列化し、望まないものや異質なものは排除する、という考え方があつたのはなぜでしょうか。

人類の長い歴史の中で培ってきた哲学や文学、倫理・宗教などがこぞって教示してきた人間の価値基準に反する行動です。

こういった思想や行動はやはり、今の日本の社会の反映です。とみに、近頃目立つ競争を煽る新自由主義に根ざした人間観は、心の余裕を失わせます。労働力や経済的価値や能力で、人間を序列化する社会は、豊かな社会だとは言えません。障がいのある人の尊厳を守られなければ、人は尊厳をもって死んでいくことはできないでしょう。みんな自分の問題として考えなければならないと思います。

防犯のために塀を巡らし、鍵をかけ、防犯カメラをつけるだけでは、犯罪の発生を防ぐことはできません。この事件をきっかけに、また、閉鎖的な施設が増えることを危惧しております。

施設は地域に開かれるべきものです。日常的に地域の人々が自然な形で交流する場があれば、障がいのある人々の価値に気付き理解が進むはずです。

残念なことは、被害者の名前を公表されないとへの家族の怒りの声が、届かないことです。この世に生を受けて、かけがえのない人生を歩んでいたことの証を、闇に葬ってもいいのでしょうか。家族の方にお願いです。大切な家族のために勇気を持って、障がいがあっても、この世に堂々と生きる権利があることを主張し、共生社会実現のために努力しましょう。

「相模原の事件について、思ったこと、考えたこと」

保護者の方々、職員に聞いてみました。

阿部 悠紀子さん（アブリ・ちあきさんの母）

私達の社会は、いつからこんなに包容力を失ったのだろう。

これまで人類が文化の発達により、この思いは差別だと自らを戒めてきたモラルのタガが次々にはずれ「強いものが勝ち」の風潮がのし歩く現状である。

そして人は一人一人が違って当然なのに『普通』からはずれていると思われる人へのバッシングが公然と行われるのは何故だろう。

格差が広がり、鬱屈した不満が行き場を失い人々の心に深く沈殿していったのか。

それが、一番弱い障がい者に文字通り刃が向けられたのか。

しかし忘れてはならぬ。犯人が障がい者に凶器を向けた時、身を持ってかばおうとした職員達の存在を。

この二度とあってはならぬ事件から学ぶことは数多い。何より伝えたいことは、弱者をバッシングするのも人間だが、身を持ってかばおうとするのもまた人間であること。

私達は今こそ弱者に手をさしのべてくれる人々を大切に思い、連帯していきたい。

門真 咲枝さん（アブリ・宏太さんの母）

「津久井やまゆり園」の事件は、『怒りと悲しさとしかし』を私にもたらした。

『怒り』は犯人の植松容疑者に対して。この世に無くていい命はない。「障害者を殺すことが不幸を抑える」という考えは独善に過ぎない。19人の命を奪い、27人に深い傷を負わせた植松容疑者であっても、必要と思う人は居るはず。今後は、一生かけて自分の独善を省み、犯した罪を償つて欲しい。

『悔しさ』はアルファベットで亡くなった犠牲者に対して。この世に生を受けたときの名前でなぜ死ねないのか。障害があろうとなかろうとその人の人生がこのような形で奪われ、しかもアルファベットで葬られることに悔しさがこみ上げてくる。一人の人間・人格として尊重されない社会を容認し、差別意識の助長につながるのではないかと懸念している。

『しかし』は事件発生後すぐに「手をつなぐ育成会」はメッセージを全国に発信したが、つどいの家連合保護者会は行動を起こさなかった。それは、私自身のどこかでこの事件を他山の石と受け止めていたのではなかったかと、未だに自問している。

飯部かよさん（コペル・太朗さんの母）

あの日、テレビのニュースから目が離せなくなりました。何も考えることができず、ただただテレビを見ていたと記憶しています。あまりに衝撃的な事件でした。犯人は、「障害者なんていなくなればいい」と。

障害のある息子を育てて、もうすぐ20年になります。私が息子に願うのは、どうか幸せな人生をおくれますように・・・です。でもこの願いは、障害があってもなくても、親が我が子に願うことではないでしょうか。

息子は、一人では食事もトイレも出来ません。他にも出来ないことばかりです。でも、その出来ないことをコペルの職員さんに支援していただきながら、社会の一員として毎日元気に通っています。家族とも、泣いたり笑ったり時には怒ったり。与えられた命を懸命に生きています。障害があるから排除されるなんて悲しすぎます。

息子に障害があつて良かったとは言わないけれど、障害があったからこそ出会えた人たちとたくさんの優しさを知り、日々、感謝を忘れず生きています。

石井 克子さん（コペル・大輔さんの母）

「津久井やまゆり園」殺傷事件は、複雑で多面的で、いろいろな問題を提起していると思います。障がい者を不幸だと決めつけ命を奪うことは決して許されないし、容疑者を擁護する気もないのですが、あってはならないことが、未来に起きないようにその背景にあるものを考え、未然に防いで行かなければいけないと思います。

その一つに、大規模な入所施設の多くが人里離れた山あいに建てられていることが挙げられます。地域社会から隔離された環境は閉塞感をもたらし、その仕事にやりがいや楽しさを持ち続けることも難しくなるでしょう。また、まだまだ存在する障がい者への差別・偏見は、身近にいなかつたり、知らないからこそ起ります。幸い息子は、新設されたグループホーム「にじいろ」に入居でき、6人の仲間とたくさんの方々の支援を受けながら家庭の延長のような暮らしをしています。本人曰く「楽しくてたまらない」のだそうです。あとに続く人たちのためにも、地域の方々に受け入れてもらえるように親としてできる限りのサポートをしていきたいと思います。

工藤裕美子さん（仙台つどいの家・望さんの母）

その不気味な笑み。それが脳裏に焼きついてしまいそうで私は思わず画面の犯人の顔から目をそらしていました。恐怖の末に命を奪われた方々、体にも心にも傷を負われた方々、目撃された方々やご家族、関係者の皆さん。どんなに胸が張り裂けそうな思いをされたことでしょう。障がいがあるからこそ赤ちゃんの時から人の何倍も手をかけ寄り添い、苦労を共にし、そして喜びを分かちあつてきた大切な子供達です。

犯人の言う「幸せか不幸か」。それは自分自身の心が決めることです。自分の周りの小さな幸せにどれだけ多く気が付けるか、幸せの種は日常生活の中に沢山あるはずです。

「私たち（親）が元氣でいられるのはこの子達のお陰だよ。だって寝てなんかいられないんだもの。」ある先輩のお母さんの言葉です。全く同感です。「大好きだよ。」言葉や肌の温もりで「愛されていること」を沢山伝え続けていけたらと思っています。

斎 益生さん（仙台つどいの家・健二さんの父）

この衝撃的な事件がテレビに流れたとき、殺害された人数の多さに驚きましたが、事件の詳細が明らかになるにつれて、色々な思いが頭をよぎりました。

最初に思ったのは被害者の親の胸中でした。同じ境遇にある者として、その悲しみがいかばかりか察するに余りありました。障害を持った子に対する親の愛情は特別だからです。

被害者の親たちのその後の様子は、想像するしかありませんが、ポッカリと心に空いた穴を、埋められずにいる人も多いのではないでしょうか？

次に思ったのは加害者とその両親のことです。

加害者の「障害者なんかいなくなればいい」というような、極端な発想をする人間を生み出さないようには、どうしたらいいのか、何が問題なのか。

育て方か、教育か、社会か？そのことを考えたとき、絶望感に近い感情に覆われました。未だ答えが見つかりません。

加害者の両親のことは、どういう思いでいるのか推量するしかありませんが、被害者の親よりも辛い思いでいることは想像できます。

二度とこのような不幸な事件が起きないことを祈るだけです。

大越 紀子さん (八木山つどいの家・雅光さん、アブリ・桂さん母)

ニュースを聞いたとたん娘は全身を緊張させて涙を流しました。次のニュースになる頃に私たちはすっかり当事者になり、隣で知的障害の息子は「逮捕！？たいほ！？」と青ざめています。恐怖を増幅させてはいけないとすぐに思いました。

普段から自分の身の周りに起こることを知りたがる二人です。翌朝ヘルパーさんとのケア中、あえて事件を話題にしました。即座に力強く抱擁され「大丈夫です。私達が必ず守ります！」とはっきりした言葉をいただき不安が吹き飛びました。通所先でも同じ対応をお願いして、娘の恐怖も軽減したとか。その後は報道の度に事件を客観視する様子に、逞しさを感じました。息子にも時間を置かず見える形で安心を伝える対応を心がけました。

命を委ねて生きる障害の重い人たちは、守られるだけの弱い存在ではなく、人を信じきる力を持つ本当は強い人々なのだとも思います。自分の内面が行動になり、そのまま彼らの環境になっている。自分がその信頼に値するか。自分が彼らの安心の要素にもなっているのだと襟を正しました。

高橋 和さん（八木山つどいの家・匠さんの母）

昨年7月に神奈川県相模原市の障害者施設で起きた殺人事件は、障害者にとっても障害者といっしょに生きている家族にとっても衝撃的であった。障害を持つ人は社会にとって負担でしかないのかと問われれば、あなたは社会に対して何の貢献をしているのかと問い合わせたい。この質問は、当然、私自身に向けられたものもある。

息子が小学校に入る時、地元の小学校に特殊学級がなかったので普通学級に入った。クラスメートにはご迷惑もおかけしたと思うが、たっくんがいるからみんなでまとまれたと言っていただいた。匠が普通学級に入学したこと、翌年、保育園のお友達も、ダウン症であったが、隣の市で普通学級に入った。二年後彼女がお父さんの仕事の都合で転校した時に、クラスのお友達は「アイちゃんの日」という記念日を作った。社会にとっての存在価値は十分にあるではないか。

障害者と健常者の境界線は曖昧である。社会にとって何が貢献なのかもよくわからない。障害者という属性ゆえではなく、ひとりの人として存在が認められ、尊重される社会が実現するように努力していきたい。

社会福祉法人 つどいの家 基本理念

『どんな重いしょうがいがあるひとも、地域社会で差別されることなく、いきいきと自立した地域生活ができるよう、自己実現を保証し支援する』

グループホーム 職員 加藤 仁

私たちは容疑者のような思想を持つ人が存在することを公に知ってしまいました。また、被害に遭われた「重度障害者」と呼ばれる方々が果たしてどんな人生を歩まれてきたのか。匿名であったとしても、そのことを掘り下げる報道は極めて少なく、精神障害者の措置入院の強化ばかり議論されていました。そのことは、多くの人々にとって障がいのある方は「あちら側」の存在であることの表れなのでしょう。正直に言うと、私もこの仕事に就く前は「あちら側」だと思っていた一人です。そんな私だからこそ、障がいのある方との関わりから得られる、他では代えがたい喜びを、せめて半径5メートルであっても発信することに意味があると思っています。

ピボット若林 職員 木下 洋子

痛ましい事件から半年が過ぎ、いまだにニュースを観たあの朝のことは忘れることはできません。その後の犯人の供述等に言葉では言い表すことのできない思いでいっぱいになりました。

「なぜ、このような考えに至ってしまったのか？」「今の私には何ができるだろうか？」と考えていたら、初めてつどいの家で実習をした日の事を思い出しました。

今まで関わりがなかったしうがいのある方々との世界。実習は驚きと感激の連続で、みんなともっともっと一緒に過ごしたいと思いながら帰宅したものでした。

あれから数年、今回の事件をきっかけに改めて強く心に願うことは、みんなと一緒に泣いたり笑ったりと楽しく過ごしていきたいということ。二度とこのような事件が起きない為に、今の私ができること、それは、委縮するのではなく、もっともっとしうがいのある方々と地域へ出ていき、共に暮らす仲間として一歩ずつ歩んでいくことなのではないかと思います。

つどいの家・アプリ 職員 榊原 悠

いつも通りの1日が始まろうとしていた朝。つい数時間前に相模原で痛ましい事件が起きたことを知る。奪われて良い命なんて、ない。いなくなれば良い存在の人なんていない。自分の物差しで勝手に人の価値を判断するなんて。考えれば考えるほど、憤りと悲しみで職場に向かう足が竦んだ。

地域の中で当たり前に暮らしていくことを目指しているはずが、まだまだ「障がいがあるから」と差別を受けたり、偏見をもたれたりしてしまうことがある。障がいの有無に関わらず、誰もが同じ「人」として支え合える地域、社会を創りたい。そのためにはまず、自分が関わっている利用者さんの笑顔を絶やさないこと。私たちの想いの発信、できることから始めよう。

ぴぼっと南光台 職員 鈴木 沙織

『障害者はいなくなればいい』犯人はそう考え、次々と傷つけていったと聞く。

わたしの地元にある障がい者支援施設では、施設から行方不明者が出てたとき、近所のお宅でお茶のみをしているところを発見されることが多くあったという。近所の方は通報したりすることなく、帰ってきたら茶の間にその人がいたから、お茶を出して、一緒に飲んでいた、とのこと。こんなにも身近に、地域がしうがい者を受け入れてきた社会があったのだと思うと、ほっとする。

みんながみんな、そうできるとは考えていないし、自分がどこまで出来るかもわからない。ただ、そういう考え方を持っている人が少しでも多くあることをねがう。

若林障害者福祉センター 職員 宮川 朋弘

事件を知ったのは夕方のニュースであった。事件の概要が語られている中、ただじっとテレビの報道を見ている自分がいた。

今回の事件は元職員が起こし、多くの利用者が被害にあった。今も事件の影響で、長期での心のケアが必要な方がいる。一方で、国で立ち上げた検証、検討チームで取り上げられている、施設に従事する職員が心身ともに疲弊して孤立することなく、やりがいや誇りをもって働く職場環境作りも重要であると感じる。

そのような環境が作られれば、利用者の活躍の場を広げる力、地域に利用者を知つてもらう力の原動力になると感じる。

今回、被害に遭われた利用者、職員並びに、亡くなられた方々へは心からご冥福をお祈りいたします。

ぴぼっと支倉 職員 横山 秀樹

今回の事件においてはメディアという制限された情報の中、すべてを把握することが不可能ではありますが、多方面の方々に深い傷跡を残してしまった出来事に深い悲しみを覚えます。

本来私たちが生きている社会の中には完璧な人間はいないはずで、それぞれ皆特技を持ち合わせるとともに苦手な一面もある中で、互いに補い支え合いながら同じ社会で生きているのだと考えています。

の中でも私たちは専門的な知見や意識を持ち、障がいのある方々の充足した生活の実現を目指してお手伝いしていくという職務を選択してここに居ます。

これまでと立ち位置や役割はなんら変わることなく、共により良い共生社会を目指して支援を行つていきます。

権利擁護・虐待防止委員会の取り組みについて

この国の障害者福祉施策の基本方針を示した『障害者基本法』の第一条（目的）には、基本的人権の享有と個人の尊重という理念と共に共生社会の実現が謳われています。

人と人との関わりながらお互いの理解を深め、個々の幸せをかたち作っていく福祉の現場においては、観ることや聴くこと、伝えることなど様々な技術を求められます。時には「もっと良いかかわりは無かったのかな？」と自分の支援を振り返り、「自分自身のかかわりは利用者（相談者）や第3者にとってどのように映っているのかな？」と客観視する必要があります。当法人は、各事業所から選任された9名の委員（職員）で『権利擁護・虐待防止委員会』を組織し、全事業所共通の内部研修や本人向けセミナー（利用者が集まり自分の気持ちを話し合う場）を実施しています。

（平成28年度委員会主担当 福地慎治）

【委員会主催の内部研修について】

今年度は2回に分けて各所にて権利擁護・虐待防止に関する内部研修を行いました。1回目は社会福祉法人つどいの家の虐待防止とその対応に関するガイドラインを全職員で確認しました。ガイドラインで使われている言葉（『固有の存在』、『感情のセルフコントロール』など）についてイメージを話し合い、解釈やイメージを皆で共有しています。気持ちの余裕や職員同士の話しやすい雰囲気作りなどが大切であることなど意見があげられていました。

2回目の内部研修では、グレーな支援（良い関わりなのかどうか判断に迷う支援）を事例として職員にロールプレイをしてもらい、それについて話し合う機会を持ちました。トイレのチェックや体重の増減を大きな声で報告していたという事例では、「自分の立場だったら嫌」、「情報としては共有することが必要だが、伝えるときに工夫が必要」といった意見が話し合われ、日々の支援の中で自分もこんな関わり方をしているかも…と身近なものとして捉えてもらうことができました。

2回の研修を通して、虐待や権利侵害は誰にでも起こりうるものとして自分で行っている支援について振り返ってもらうことができました。今後もガイドラインの周知を行いながら日々の支援について考える機会を持てるような研修を行っていければと思います。

（平成28年度委員会メンバー 後藤昌宏 仙台つどいの家）

【本人向けセミナーについて】

法人内の通所系事業所を利用されている方々を対象としたセミナー「はなしすっぺし～自分のこと～」を、宮城野区文化センターにて開催しました。このセミナーは前年度より継続しており、『当法人の通所系事業所を利用されている方々がご本人同士で話し合う機会を持つこと。そして、ご本人が活動内容や事業所をどのように思っているかを知り、今後の運営を考えるきっかけとする。』ことを目的としています。

今回のセミナーには27名の方が参加され、1グループ4名程度に分かれて話し合いが行われました。様々な意見が飛び交う中、心に響いた意見もありました。それは「利用者をもっと見てほしい」という一言でした。見ているつもりになっていたことに気づかされました。

社会福祉法人つどいの家では『本人意思』を大切に支援を行っています。今回のセミナーのように、利用者同士が話し合うことで、思いが共有でき、相談ができる場が設定できたように感じます。もちろん職員としては利用者さんと信頼関係を結び、思いを伝えられる関係性を作っていくたいと感じておりますが、今回のセミナーを行って、思いを伝えやすい場を設定することも『自分の思い』を伝えるには重要なことなのではないか、と感じる機会となりました。

（平成28年度委員会メンバー 押切稻太 八木山つどいの家）

本人向けセミナーに参加された方々の声

（アンケートより）

- ・今回は「つどいの家グループ」（仙つ・八木山・若林コペル・太白アブリ）の4施設合同の交流会に出席することができた。どんなイベントなんだろう？とはじめはきんちょうしたケド、自分のキモチを伝えるコトができて、ホントによかったです。来年、またこんな会をひらけたらぜひ出席したいデス！！
- ・グループのメンバーとはたくさん話すことができたが、もっとたくさんの方と話をしたかった。（代筆）



グループホーム「にじいろ」開設しました

「それぞれの想い…」

当法人では、ハウスメーカーにはたらきかけ、土地所有者の建貸しにより、男性グループホーム（定員 6 名）を 10 月に若林区沖野地区に開設しました。この数年間、新規グループホームの整備に向けて、プロジェクト会議を開催する等の準備を重ねてきました。しかし、東日本大震災からの復興、復旧や土地、建物の取得、人材の確保、入居希望者が少数等により、整備計画はあったものの、進まない状況でしたが、ようやく当法人 5 棟目のグループホーム『にじいろ』を開設することができました。

入居されたメンバーは、数年前から、将来のグループホームでの生活を目指し、宿泊体験を重ねてきたメンバーです。ついにグループホームの生活をスタートすることができました。当時の宿泊体験の様子を知る私は、このメンバーでスタートできることにとても喜びを感じています。「夜は眠らないのでは」「部屋で過ごすことができないのでは」「食事がすすまないのでは」と様々な心配事がありましたが、入居者のみなさんは、あっという間に新しい「にじいろ」の環境に慣れ、それぞれ

の過ごし方を見つけられたようです。これまでに宿泊体験を重ねてきたからこそではありますが、あらためて入居者の方々の秘めた力を実感しました。できないだろうな（難しいだろうな）と思うことも、環境が整い、経験を積むことで、実現できるということを教えてくれました。

新しいグループホームは、開設はしましたが、夜勤者等の人材の確保がとても困難な状況にあります。そのため、現在は、日々、法人内事業所全体で職員体制のバックアップをしながら、3 泊 4 日の宿泊となっています。今後、十分な宿泊日数を提供するためには、人材の確保が必要です。

『にじいろ』は、様々な色（カラー）、個性ある入居者の皆さんのが集い、それぞれの色を出しながらひとつの空の下、ともに暮らしていきたいという願いが込められています。

今回、グループホームの開設にあたり、全日本自動車産業労働組合総連合会（略称 自動車総連）様より、家電品 3 点（冷蔵庫・炊飯器・テレビ）を寄贈していただきました。ありがとうございました。

（グループホーム管理者 飯田克也）

「にじいろ」入居後、6 ヶ月を経過して～入居者・家族の声より

- ・いいですよ。自分で（車椅子）動かせるしね。（入居者）
- ・俺はこれ（壁紙）が好きだ。（入居者）。（居室の壁紙一面を好みの色から選択）
- ・ご飯は家のほうがおいしいかな…（入居者）。
- ・入居当初は、おもちゃ箱をひっくり返したようで、職員の方は、入居者の動きに振り回されているような状態でしたが、いまはすっかり落ち着いたようです。
- ・親元を離れて生活できるなんてびっくりしています。
- ・成長したみたいですね。
- ・グループホームの生活と自宅での生活を楽しんでいるみたいです。
- ・朝まで熟睡しているなんて、すごいですね。
- ・排便のリズムがまだできていないようですが、少しづつできているみたいですね。続けていってほしいです。
- ・自宅に帰ってくると、夕飯はとてもたくさん食べます（少し、ほっとするのかも）



介護スタッフ大募集

グループホームで働いてみませんか？

年齢・経験は問いません。

若林区沖野周辺にお住いの方で夜勤ができる方を募集しています。

週1日～2日の勤務でもOKです。

入居している6人のしうがいのある方々の、食事介助・入浴介助・トイレ介助ほか、日常の生活を支援するお仕事です。

「ヘルパーの資格は持っているけど、経験が・・・」なんて心配されている方、安心してください。法人内施設での事前研修や先輩職員の丁寧な指導で、不安も解消です。もちろん、働きながら資格を取るための制度もあります。

ホームの名前は「にじいろ」！ 開設したば

かりの男性専用ホームです。

当法人は同性介護を基本としているので、男性スタッフ大募集です。

お問い合わせは、下記まで・・・まずはお電話ください。



【お問い合わせ】法人事務局 鈴木 TEL: 022-781-1571

寄付金募集

つどいの家は、多くの方々の支援に支えられ7月で法人設立25周年を迎えます。「どんな重いしうがいがある人も、地域社会で差別されることなくいきいきと自立した生活ができるよう、自己実現の場を保障し支援する」という法人の基本理念を、これからも全職員一丸となって全うできるよう取り組んでいく所存です。

しかしながら、重いしうがいのある人を支援していくためには、人手も資金も多くかかります。現在、施設建物の老朽化に伴う改修工事や、グループホームの管理センターの設置等を検討しており、多くの資金が必要です。より良い事業を推進するために、つどいの家に協力していただけないでしょうか？



※社会福祉法人つどいの家への寄付は、確定申告によって所得税法上の寄付金控除が受けられます。控除を受けるためには、領収書作成が必要ですので、電話・FAX・Eメール等にてご連絡ください。

(TEL: 022-781-1571 FAX: 022-781-1573 Email: honbu@tsudoinoie.or.jp)

■銀行口座

七十七銀行 沖野支店 普通 5354960

社会福祉法人つどいの家 理事長 下郡山 和子

※振込人名に「キフ」とお付けください。（例：キフ ツドイタロウ）